

野生イノシシにおけるアフリカ豚熱(ASF)防疫演習について

令和6年2月27日、野生イノシシにおけるアフリカ豚熱(ASF)感染確認を想定し、現地における防疫措置、関係各者との連携体制を確認するとともに、防疫対応の実行性を確認するため、防疫演習を実施しました。県内の野生イノシシで、ASF 感染が確認された際には、まん延防止措置として死亡イノシシの積極的搜索と死体の埋却・回収などを迅速に行う必要があります。今回の演習では、ASF に感染して死亡したイノシシが山林内で発見されたことを想定して、「現地で埋却する」若しくは「現地から回収(搬出)する」効率的な方法を演習し、検証を行いました。



【演習概要を説明している様子】



【埋却溝を掘削している様子】

アフリカ豚熱(ASF)について

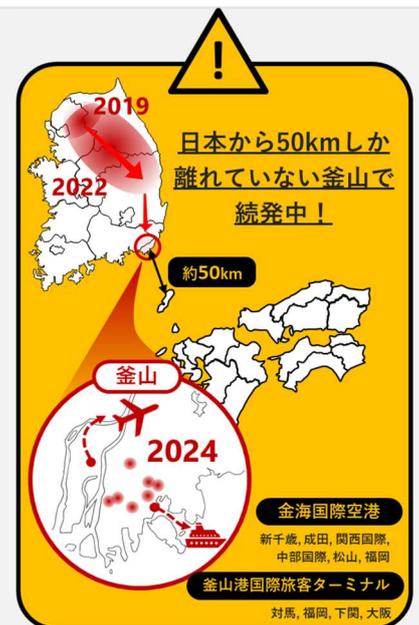


1. ASF とは？

ASF は、ウイルスが豚やイノシシに感染することにより、発熱や全身の出血病変を特徴とする致死性の高い伝染病です（現在、国内で発生している豚熱とは全く別の病気）。有効なワクチン・治療法はなく、万が一、国内でまん延すれば、養豚業界に甚大な被害をもたらす恐れがあります。

2. ASF の発生状況は？

現在、アジア地域で散発的に発生しています。東アジア地域での未発生国は、日本と台湾のみです。韓国釜山でも野生イノシシにおいて ASF 感染が確認されています。



※農水省 HP より

異常産サーベイランスについて

令和5年度も異常産サーベイランスにご協力いただきありがとうございました。今年度の異常産サーベイランスの結果について農林水産省より報告が届きましたのでお知らせします。

- ・アカバネ病…全国で調査を実施した結果、抗体陽転はなし。
- ・アイノウイルス感染症…西日本にて調査を実施し、抗体陽転はなし。
- ・チュウザン病…8月から11月にかけて九州・四国地方で抗体陽転が確認されました。

長崎県と宮崎県の調査により、チュウザンウイルスの抗体陽性牛からディアギュラウイルス遺伝子が検出されたため、九州・四国地方での抗体陽転はチュウザンウイルスに近縁なディアギュラウイルスによる感染で産生された抗体によるものであると思われます。沖縄県ではサーベイランスとは別に病性鑑定のため、10月に採取された血液検体からチュウザンウイルスが検出されました。

島根県で異常産ウイルスの抗体陽転は確認されませんでした。もし、飼養されている牛に異常産を認めた場合には家畜保健衛生所までご連絡ください。

R6年度の5条検査（ヨーネ病検査）のお知らせ

ヨーネ病の清浄性を確認するため、家畜伝染病予防法第5条に基づき5年に1回以上の検査を実施しています。令和6年度の益田家保管内の検査対象地区は、『**吉賀町**』になります。具体的なスケジュールに関しては、新年度になってから農家の皆様及び関係機関にはお知らせしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、検査費用は1頭につき800円になります。ご不明な点がございましたら、当所までお問い合わせください。

実施年度	検査対象地区
令和6年度（2024年度）	吉賀町
令和7年度（2025年度）	益田市【乳用牛】
令和8年度（2026年度）	益田市【肉用繁殖牛】
令和9年度（2027年度）	益田市（美都・匹見・種地区）【肉用繁殖牛】
令和10年度（2028年度）	津和野町

編集後記

今年度最後の広報です。皆様には今年度も大変お世話になりました。来年度もよろしくお願いいたします（門脇）